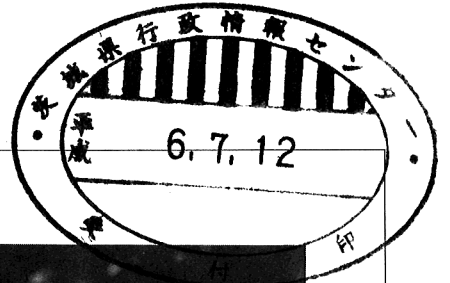


歳

時

記



夕チアオイ（立葵）

梅雨の晴れ間の強い日差しの下、庭先で何気無く咲いている夕チアオイは、とても清涼感あふれ、梅雨のうっとうしさを一掃してくれます。

太い茎がまっすぐに伸びているため「立葵」と言われていますが、アオイというのは、日を仰ぐという意味で、根が太陽に照らされるのを防ぐため、日光を集めるように葉が開くということからきています。また、入梅のころ下から順に咲き始め、茎の上部まで咲いたころには梅雨が明けるということから「梅雨葵」、中国から渡来してきたため「唐葵」という別称もあります。

京都の葵祭（5月15日）で、供奉者の冠や牛車を飾るアオイや、徳川家の家紋であるアオイは、アオイ科の立葵とは別種で、ウマノスズサク科の二葉葵と呼ばれるものです。

「葵草てる日は神の心かは
かげさすかたにまづなびくらむ」

藤原基俊

さ

い

じ

き